

## 地域ブランド 戦略 53

地方PR機構 代表理事  
殿村 美樹

### 気候変動が変える旅のスタイル

ここ数年で、日本の夏はことのほか暑くなった。日中の気温は35度前後に達し、夕立は嵐のような大雨と突風を伴うことが珍しくない。そんな気候変動を目の当たりにして、たとえ地域が誇る観光プランであっても、日中の街歩きやハイキングなどは熱中症が心配で勧められない。

そんな中、奈良市で開催中の夏の観光プラン「奈良・西ノ京ロータスロード」が注目を集めている。夏の朝に薬師寺、唐招提寺、西大寺、喜光寺の4つの古刹を訪ねて、境内に咲く蓮の花を愛でるシンプルな観光プランだが、年々暑くなる日本の夏に、朝の爽やかさと深い歴史を楽しめるとあって、世代を超えて観光客が訪れている。

そもそも奈良の夏は暑い。そのため以前から、比較的涼しい朝の観光プランが多かった。しかも、奈良の朝は凜とした空気に包まれ、古刹では奈良時代にタイムスリップしたような幻想的な雰囲気が楽しめる。

しかしこれまで、観光のピークは日中といった考え方が根深く、朝の観光プランはあまり目立たなかった。人気を集めるのは、朝市や朝風呂など宿泊場所の近くで楽しめるものばかりで、

朝は午後からの観光に備える時間といった印象が強かった。

ところが、気候が大きく変わった今、朝は観光客を呼べる貴重な時間になった。同時に朝に咲く蓮の花は、観光客を呼ぶ資源になった。また蓮には「泥<sup>でい</sup>中の蓮華<sup>ちゅう</sup>」「蓮は泥より出でて泥に染まらず」など古いことわざが語るように、心に響くストーリーがある。泥の中で育ち、



「奈良・西ノ京ロータスロード」の魅力を語る古刹の僧侶たち（世界遺産の薬師寺）

美しい花を咲かせる姿は仏教において「智慧の象徴」とも云われており、お盆が近づく夏の朝、蓮の花が咲く古刹を訪ねるだけでもご利益がありそうだ。

#### 奈良の朝と夜を楽しむ

そんな観光ニーズの高まりを背景に、奈良市観光協会は今年、同プランが10回目を迎えることを記念したイベントを盛りだくさんに用意した。なかでも期間中、JRや近鉄奈良駅の観光案内所や各寺院の拝観受付で販

売される「四ヶ寺共通拝観券（4,000円・1,500枚限り）」は、この期限定の「特別ご朱印（別途納経料が必要）」をいただけるとあって大人気だ。

また、奈良公園へ足を延ばせば、鹿たちがナチュラルホルンの音色に集まる夏の風物詩「なつの鹿寄せ」も楽しめる。今年も8月27日までの毎週日曜日の朝を中心に開催されているが、多くの観光客で賑わっている。また、朝を楽しむためには宿泊や夜の楽しみも必要との声に答えるように「なつの奈良旅キャンペーン2023～心整う旅」が同時開催されている。ホテルや旅館、グルメはもちろん、新日本三大夜景のひとつ「若草山から望む夜景」や奈良公園一帯が幻想的な光に彩られる「なら燈花会」（8月5日～14日）など、夜の幻想的なイベントが満載だ。近い将来、夏の奈良観光は夜に来て宿泊し、朝のプランを楽しんで日中に帰るといったスタイルが定着するかもしれない。

時代とともに社会が変わるように、気候変動に応じて観光スタイルが変わるのは当然といえるだろう。しかも昨今、AIなど最新技術の発達が目覚ましく、人々はこれまで経験したことのない世界を追っている。そんな環境の変化を敏感にキャッチして観光に生かす視点が、今後の地域ブランド戦略には不可欠だ。観光施策の再検証が必要である。

G